



豊かな狛江をつくる市民の会通信

豊かな狛江

豊かな狛江をつくる市民の会

狛江市東和泉1-1-18 いづみ荘103号室
新日本婦人の会狛江支部気付
連絡先：080-5084-1821（前土肥）
郵便振替口座番号 00140-3-727253

第280号（2023年11月号） / 2023年11月1日発行

市議会第3回定例会（後半）

第3回定例市議会は10月5日に閉会しました。10月号では、9月議会初日（8月31日）におこなわれた補正予算案および「インボイス延期」についての陳情への審議について、報告がありました。

●一般質問

9月7日からの一般質問では、「豊かな会」が推薦し当選した4人の議員（いずれも日本共産党）は、市民の要望にもとづいて、市民の命と暮らしを守るための施策充実を求めました。

岡村しん議員は、PFAS（有機フッ素化合物）の問題を取り上げました。多摩地域の地下水から発がん性等が指摘されPFASが検出され不安が広がっていることから、市でも独自調査を行うよう求めました。市長は「国や都の動きを注視し情報提供と対策の検討にとりくむ」と答弁しました。多摩地域では、調布、武蔵野、国分寺、昭島、八王子、町田の6市が独自調査に踏み出していることも明らかになりました。

宮坂良子議員は、深刻なトラブルが続出するマイナ保険証の問題をとりあげました。いのちと健康を守るためにも、紙の健康保険証を存続させることが必要だとし、市としても、国に保険証存続を求めるようはたらきかけるべきと迫りました。質問の中で、昨年度は狛江市でもカードの紛失が187件あったこともあきらかになりました。

西村あつ子議員は、保健所の問題をとりあげました。都内で最大、一カ所（多摩府中保健所）で104万人のエリアを管轄する現在の体制の問題点を指摘し、狛江・調布に保健所設置を求めました。この間繰り返し議会質問で取り上げるも、狛江市も「所管地域が大きすぎるのではないか」という意見は（都に）伝えた」と都の会議で発言するなど、変化が起こってきていることも明らかになりました。

今号では、それ以降、10月5日の閉会までに行われた一般質問および22年度決算審議などについて、まとめました。（豊かな会世話人 重国たけし）

荒木てつ議員は、学校教員の長時間労働の問題についてとりあげました。「働き方改革には国による教職員の大幅増員が不可欠」と指摘するとともに、茨城県守谷市では、市の予算で理科・音楽・図工等の専門教員を15人増員し、一カ月の教員の時間外勤務を小学校は61時間から33時間など削減したことを紹介。狛江市でも独自の取り組みを求めました。「市費講師配置は有効な手段」（教育長）などの答弁がありました。

●決算審議 20億円黒字、さらなる市民支援可能

決算の審議では、市から、22年度の狛江市の決算（実質収支）は20億4700万円の黒字だったことが報告されました。

日本共産党市議団は、市民の強い要望であり、繰り返し求めてきた子ども医療費所得制限撤廃（小学3～6年）や就学援助対象者拡大が22年度に実施されたことなどは評価できるものと指摘しました。

しかし、①こまYELLへの相談者が年間800人にのぼるなど市民の生活困難が広がるもと、市財政の改善を踏まえれば、市民支援の施策をもっと行うべきであったこと、②市民センター改修の問題で、条例どおりの手続きが行われず「市民参加と協働」が後退したことから、決算に不認定の立場を表明しました。

国保税の値上げを見送ることが可能であったことも指摘しました。

■「健康保険証廃止」中止求める陳情否決

マイナ保険証のトラブルが相次ぐもとで市民から提出された「健康保険証を存続するよう国や都へ意見書提出を求める陳情」は、狛江市の市議会では、自民、公明、分・維新が反対し、否決されました。なお、同様の陳情は、調布市議会では可決されてい

ます。

■PFAS意見書可決

日本共産党と無所属の議員が共同提出した「有機フッ素化合物（PFAS）対策の推進を求める意見書」は、全会一致で可決されました。

PFAS 汚染 “健康被害把握してないから対応しない” の打破を

PFAS 汚染を明らかにする狛江の会 重国たけし

10月のPFASをめぐる動きについて報告します。

市議会全会一致で政府への意見書を可決

10月5日、日本共産党（岡村しん、西村あつ子）と無所属（高木さとし、小木哲郎、ひらい里美）の議員が共同提出した「有機フッ素化合物（PFAS）対策の推進を求める意見書」が市議会で、全会一致で可決されました。

意見書は、狛江市内の井戸からも暫定基準値を大きく超過するPFASが検出されたことをふまえ、国による健康影響及び環境に関する評価や調査を求めるものです。①影響評価と対策についての情報提供と支援、②土壌汚染の評価指標設定、③汚染原因の調査・究明などを求めています。

全会一致で可決されたことは重要です。汚染原因の究明のためには、米軍横田基地への立ち入り検査が欠かせません。また、調布市などは独自の地下水調査に踏み出しています。狛江市は「（独自調査の）実施予定はない」（9月7日の岡村議員の一般質問への答弁）としていましたが、国への要請とともに、狛江市でも具体的な取り組みが始まることを期待したいところです。

「多摩の会」が国と都へ対策強化を要請

10月23日、「多摩地域の有機フッ素化合物（PFAS）汚染を明らかにする会」（多摩PFASの会）は、「有機フッ素化合物（PFAS）による地下水・水道水汚染から住民の命と健康を守る要請」を、岸田首相ほか関係大臣あて、および小池都知事あてに提出することについて記者会見をおこないました（提出は月末など）。私も「狛江の会」から参加しました（写真①右から3人目）。

この要望書では、「多摩PFASの会」が取り組んで

きた、多摩地域の30自治体の居住者791人の血中濃度の分析結果をふまえ、

- ①PFAS曝露と子どもの成長発達に関する解析および、免疫毒性、睾丸腫瘍などの希少がん、腎がん、脂質代謝異常の疫学調査を行うこと
- ②飲料水の水質基準を米国環境保護庁（EPA）が提案する4ナノグラム／リットル以下に定めること
- ③全国的・大規模な血液検査、地下水検査をおこなうこと、およびPFASを土壌汚染対策法の特定有害物質に指定すること
- ④米軍に横田基地内への立ち入りを行い、PFAS汚染の実態をあきらかにすること
- ⑤企業や公共施設のPFAS使用について調査し、情報を自治体に提供すること
- ⑥（都への独自要望）地下水が汚染された浄水所への浄化装置設置、自治体の調査や汚染除去などのPFAS対策に財政的支援を
などについて、要望しています。

この間、PFAS外来に取り組んできた医師からの報告もおこなわれました。

東京の共産党が政府要請行動

24日には、日本共産党東京都委員会の主催で、国会要請行動（環境省、厚労省、防衛省、外務省が対応）が行われ、都内の共産党議員および運動に取り組む住民（重国も参加）が参加しました。

この間、市民団体の血液検査によって多摩地域の住民にPFASの蓄積が進んでいることが明らかになり、米軍横田基地でのPFASを含む泡消火剤の漏出を認めさせるなど、実態解明へ貴重な前進が生まれています。自治体独自での調査に踏み出すところも増えてきました。一方で、国や都は「健康影響に関する科学的知見の収集の充実が必要」などとして、具体

的な対策に踏み出そうとしていません。

今回の要請行動では、血中濃度の基準の設定、国による住民の血液検査の実施、水道水の水質基準強化、土壌基準の設定、地下水汚染の原因調査・横田基地への立ち入り検査などを求めました。しかし、「現時点では血中濃度と健康への影響の関係については明らかでない」などとして、積極的な姿勢はまったく見られませんでした。

しかし日本の場合、「明らかでない」というより「調べていない」＝「明らかにしていない」のが実態です。対策が遅くなるほど、妊婦さんおよび子どもなど悪影響を受ける人が増えます。汚染源対策（除染や浄水器設置など）が可能なもとで、それをやらないのは、これまでの公害でくりかえされてきたように、確信犯的な加害行為との批判も免れません。自治体にも国にも、積極的な対策を引き続き迫



①「多摩地域の有機フッ素化合物（PFAS）汚染を明らかにする会」の記者会見（10月23日、都庁内）

っていきたいと思います。

11月16日に医師による学習会、13日にDVD視聴会

第3回の学習会を11月16日（木曜日）18時30分から、狛江公民館講座室で行います。講師は「PFAS外来」に取り組んでこられた青木克明医師で、この間の外来診療の結果や、健康と人体への影響などについてお話しいたします（別紙チラシ参照）。

狛江の5カ所の井戸水調査結果もお知らせします。

また、13日（月）14時から、PFASをテーマにした沖縄テレビ作成のDVDの視聴会・意見交換会も予定しています（公民館視聴覚室）。

ぜひ、ご参加ください。



②日本共産党東京都委員会・議員団による政府要請（10月24日、衆院第一議員会館）

野川サイクリング道路、外環道業者が陥没こっそり埋め戻し！

外環道トンネル工事を原因とした調布市での大規模陥没事故では、住まいを追われた住民らの苦しみが続いています。10月18日で3年となりましたが、10月上旬、付近の地下に外環道トンネルが通る野川沿いサイクリング道路（東野川3丁目谷戸橋付近）に生じた陥没（大きさ10センチ、深さ20センチ程度）を、外環道工業者が管理者の狛江市に無断で埋め戻していたという事態が発覚しました。河川法に違反する行為です。岡村しん市議と狛江市担当者が現場を確認。「しんぶん赤旗」日曜版（10月15日号、12日発行）がスクープしました。

朝日新聞なども、その後出されたNEXCO東日本の発表をもとに報道。「住民には不安と不信感が広がっている」と指摘しました。

狛江市も13日、国交省とNEXCOに対し、安

全確保へ取り組み強化を求める要請を行いました。

共産党が国会で聞き取り 原因解明、安全確認はなされず

18日には、日本共産党国会議員団（宮本徹、吉良よし子、山添拓）および地方議員・住民らによる国土交通省およびNEXCO（高速道路会社）の聞き取りが行われました。

①事業者は8月に陥没の発生を把握しながら国土交通省に報告したのは10月10日、②「シールド掘進の影響の可能性は低い」としながら根拠を示せない（原因調査をしていない）、などの実態があきらかになりました。

狛江からは、岡村市議および重国たけしさん（ハイタウン在住）が参加。安全の確認と原因調査など

を求めました。「さらなる大規模な陥没につながることはないかなど、安全性は確認されているのか。陥没の原因究明の予定は」など質問しましたが、国交省からは、「事前に質問をいただいていたので……」と、回答を拒否されました。

なお、18日の聞き取りのようすは、動画が公開されており、以下から、全部及びハイライトについて見ることができます。

<https://twitter.com/emil418/status/1714638917054747004>

<https://www.jcp-tokyo.net/2023/1019/87890>

「通行者の安全第一で埋め戻した」とNEXCOは説明しましたが、埋め戻して誤魔化しただけで、安全は確認されていませんでした。外環道トンネル工事との関係を疑う専門家の指摘も出されています。原因究明、安全確認が求められます。

10・22「図書館分割でいいの？市民集会」 64名の参加で、これからの進め方で意見交換

「ちょっと待つて図書館移転連絡会」の呼びかけで、10月22日（日）10時から12時、中央公民館ホールで「図書館分割でいいの？市民集会」が開かれ、64名の参加者により熱心な意見交換がおこなわれました。

連絡会よりこれまでの経過報告、宮坂市議より市議会でのやり取りの報告、平井市議より図書館への思いが語られ、続いて出席者によるリレートークが行われました。図書館分割はありえない、市のやり方に対する怒り、今なんとかしないとという思いから、何をすべきかという意見が次々出されました。

・文化が失われようとしている狛江の現状をマスコミに働きかけ外からの圧力で市を動かすべき、時間はない。・図書館を二つに分けて何のメリットがあるのか。大事なことは市民の意見を聴かずに決定した。これが事実であれば基本方針ではない。民主主義に反する。・子育て世代には図書館は重要な場所、若い人にはネット署名もある、図書館を利用する若いお母さんたちも運動に入ってこられるよう間口を広く。やれることはやりたい。・SNSやポスターなどで多くの市民に知ってもらおう、など、前向きな提案がなされました。

ちょっと待つて図書館移転連絡会こまえでは、これらの提案を受けて運動を進めていくことを表明、市長あての「市民合意のない、図書館の分割・移転を直ちに取りやめ、現在地での充実を市民参加・市民協働で再検討」を求める要請文を採択、要請文は24日市に提出し、懇談を持つよう再度要請しましたが、30日現在回答はありません。

ちょっと待つて図書館移転連絡会の世話人会は市民への周知を図るため、連絡会ニュース発行、声明文の作成、ポスター、SNS、市民の声を反映させる住民投票の検討など、対策グループを作って運動を進めていくということです。



！ 狛江市あて「小中学校給食費の無償化を求める署名」

！ こまえ社保協の呼びかけで12月議会に提出する陳情署名を集めています。
！ 11月15日までに最寄りの豊かな会世話人にお届けください。

11月の市民運動などの予定

※今月、市民運動団体などが予定している各種会議やイベントなど、日程を掲載するコーナーです。編集部が把握する情報には漏れがあると思いますので、ぜひあなたの情報をお寄せください。
 ※本紙に折り込んでほしいピラなどがありましたら、320部用意してください。会報製本・仕分け作業日前日が締め切りとなります。折り込み希望の方は、可能な限り、会報の製本・仕分け作業をお手伝いください。

日 時	会場など	内 容	問い合わせ先など
3日(金) 13時45分～ 15時10分	国会正門前	つなごう 憲法をいかす未来 へ「11・3 憲法大行動」 12:30 狛江駅集合	《平和憲法を広める狛江連絡 会》《こまえ九条の会》
4日(土) 14時～16時	東京土建狛江 支部会館	こまえ社保協第11回総会	
9日(木) 15時～16時	狛江駅前	9の日行動 ＝駅前署名・宣伝行動 日暮れが早いので時間繰上げ	戦争なんてイヤだ！狛江市民 実行委員会
10日(金) 10時30分～	みんなの広場	「豊かな狛江」12月号 編集会議	
13日(月) 14時～	中央公民館 視聴覚室	PFAS 問題沖縄テレビ制作 DVD 視聴会	PFAS 汚染を明らかにする狛 江の会
14日(火) 14時～16時	東京土建狛江 支部会館	こまえ社保協事務局・役員会	各加盟団体の皆さんは、ご出 席ください。
16日(木) 14時～16時	中央公民館 第2会議室	《平和憲法を広める狛江連絡 会》《こまえ九条の会》合同世 話人会	新しい方の参加大歓迎です。
16日(木) 18時30分～	中央公民館 講座室	PFAS 問題第3回学習会 講師：「PFAS 外来」に取り組ん でこられた青木克明医師	PFAS 汚染を明らかにする狛 江の会
22日(水) 17時30分～ 18時30分	狛江駅前	《消費税をなくす狛江の会》 の署名行動	民主商工会や東京土建狛江支 部などが中心。第4水曜日。
27日(月) 14時～16時	みんなの広場	豊かな会拡大世話人会	世話人以外の方の参加歓迎で す。
28日(火) 9時30分～	みんなの広場	豊かな会会報『豊かな狛江』 12月号の製本・仕分け作業	折り込みのある団体はご参加 ください。

寄稿 100歳を迎えて 狛江市長選挙を振り返る

増田善信（気象学者 東野川在住）

1984年4月、私は気象研究所を定年退職し、娘の家族と同居するために世田谷から現住所に来了。その後、妻の義父母との4世代所帯になったが、4月中旬に日本共産党調狛府中地区委員会の人を訪ねてきた。狛江市長選挙への出馬問題だった。私は「狛江市政も市民の動向も分からないまま出るのは、市民を愚弄するに等しい」と即座に断った。結局、梅木さんが出馬し、1980年の「共産党排除」の社公合意の煽りで社会党の支持もなく惜敗した。

1988年4月、調狛府中地区委員会の人再び来て市長選出馬を要請した。私は即座に受諾し、「共産党系だけでなく、民主的な市民の支援が得られるようにしてほしい」と注文した。すると、深谷先生や久慈さんらが「狛江を呑む会」などに連れ回り、そこで作曲家の金光先生や画家の武田先生、学者の稲葉先生、加藤先生などを紹介され、この先生方が中心になり、「市民の声を聞く狛江市政をつくる会」（祖慶雅子代表）が結成された。

最も活躍してくれたのが気象庁関係、特に全気象の人達だった。国家公務員だから選挙活動は出来ないが、全国から選挙カンパを集め、明け、公休を利用して選挙事務所に詰め、封筒の表書きなど雑事をこなしてくれた。

選挙事務所には困った。保守の声がかりで借りられず、最初に借りた所を数日で追い出され、やっと和泉本町3丁目の横町の自転車屋を借りた。男所帯で野良猫の棲み家だった。猫の糞で足の踏み場もない。それを綺麗に片づけて立派な選挙事務所にしたのだ。繁華街からも近く、交通も至便、素晴らしい選挙事務所になった。

次に困ったのは社会党との選挙協力の問題で、形だけでいいから「推薦を」と、当時の社会党の責任臼井狛江市議に頼んだ。何回も訪問したが、「次の執行委員会にかける」とか、「東京都本部に問い合わせている」などと言って結局回答はもらえず、出馬表明は延びに延びて5月10日になった。

しかし、この間十分時間があつたので、素晴らしい政策ができた。パンフレット『市民の声が届く市政』（写真版16ページ）は、当時『赤旗』写真部の秋藤さん（狛江在住）が作ってくれた。表

紙は活気に満ちた狛江の象徴“小田急高架下の狛江駅”から溢れる人の流れで飾り、「市の行財政検討委員会」の委員として中学校給食、学童保育所増設などを求めたのでその実現のために立候補した「私の決意」が続き、多摩川の清流の写真、女性だけの座談会、私の家族と義母の短歌、3ページも使ったイラスト入りの6項目の「実行プラン」、滝平二郎さんや山口勇子さんなど国内の学者・文化人、市内在住の学者・文化人の“期待を込めた”声が続く、裏表紙は小池邦夫さん（狛江在住）の絵手紙であった。

武田範芳画伯（狛江在住）のピエロの絵が初めて使われていた。この絵は、その後、原先生や矢野さんの選挙でもテレホンカード、手提げ袋などに使われ選挙資金を稼いだ。

選挙運動は楽しかった。2期目を目指す石井三雄市長との一騎打ちで、相手は選挙運動を全くしなかったのだから、私の政策が市民に浸透していった。狛江市役所の労働組合は自治労で、丁度ストライキの時、保育園児を預かってくれないのでお母さん方は困っていた。私は全気象委員長の時、観測・予報を止めないために「スト決行中」の腕章をつけ保安要員も含め、全組合員参加のストライキを成功させた話をし、保安要員を残して園児を受け入れるよう訴えた。これは市民には好評だったが、自治労は冷たかった。

私は、当選できるかも知れないと思ったが、6月下旬に、アパートというアパートが石井氏のポスターが溢れるのを見て、「やっぱり負ける」と思った。結果は、得票率37.8%の善戦で、次の原先生や矢野さんの選挙に繋がり、6期16年の矢野市政の基礎を築いたと思う。

今の狛江市政は、アメリカ言いなり、大企業いいなりの上、敵基地攻撃など「新しい戦前」に突っ込んでいる岸田自公政権と同じ方向を向いている。これを根元から変えるためには、野党共闘以外にない。「豊かな狛江をつくる市民の会」が野党共闘の中心の役割を果たすことを期待する。

善信さん100歳を寿ぐ会

福島被災地に行った「考える会」メンバーでお祝い会

9月11日の誕生日をいくつか超えた16日の午後、小規模なお茶会をしました。

100本のローソクを立て(火をつけるのが大変でした)、一気に吹き消し(すごい肺活量!)、会が始まりました。増田さんは始まる前から戦中の話から戦後の話と次々と、休む間もなく話しっぱなしで、2時間半。私たちはちょっと質問したり、あいの手を打つのがやっとでした。その固有名詞を含めた記憶力とつい昨日のように話される迫力は驚異的でした。その時々を大切に生きてきた、今もそうして生きている証と尊敬しています。西尾記



追悼 内山操さん、鈴木真理子さん、寺尾浩次さん

豊かな会世話人 小俣 三郎

8月に内山操さん、9月に鈴木真理子さん、寺尾浩次さんがお亡くなりになりました。

3人とも豊かな会会員で、かつ「平和憲法を広める狛江連絡会」の立ち上げに参加され、忌憚のない議論を交わしながら、2001年1月の発足集会を共に迎えました。

内山操さんと鈴木真理子さんは、平和憲法を広める狛江連絡会の世話人会に出席され、平和憲法を広める狛江連絡会の運営に大きな力となりました。2005年には、平和フェスタの立ち上げにも参加し、それが今に続いています。

寺尾浩次さんは、大正15年生まれで、最後の少年兵として中国で応召された経験を平和フェスタでも力強く語っていただきました。

皆さんと憲法9条を守るための5.3集会など多くの集会に参加し、パレードも共に歩んだことは、かけがえのない経験として記憶に残っております。天上から戦乱の無い世が実現するよう見守ってください。

九条の会「10・5大集会実行委員会」主催 「なかのZERO」大ホール 「10.5 九条の会 大集会」報告

夏の終わりを告げる冷たい強風が吹きすさぶなか、1200人を超える人が集まり、1階2階とも超



満員となりました。

先ず、車椅子でサプライズ登壇した澤地久枝さんは、「九条の会呼びかけ人9名のうち大江健三郎さんがお亡くなりになり8名が亡くなり、私だけになってしまった。・・・九条の会は『戦争する国』への道を止める最後の砦。1ミリも譲れない。・・・93歳になっても自分で歩こうという意志を持ち続け闘う」と熱情いっぱいスピーチされました。

その後、松下玲子さん(武蔵野市長、全国市長九条の会共同代表)が発言し、小森陽一さんが実

行委員会の開会の挨拶をしました。



スピーチ1として、田中優子さん（前法政大学総長・九条の会世話人）は、「岸田首相の軍拡・改憲に反対する声を！～『正しい戦争』はどこにもない」と題して講演し、「岸田首相の会見・軍拡に反対する声を上げよう。そのために勉強しよう、言葉にしよう。」と述べました。

文化行事・カンカラ三線・岡大介さん（演歌師・芸人九条の会）の後、スピーチ2として、中野晃

一さん（上智大学教授・市民連合運営委員）は、パワーポイントを使って、



安保3文書に基づく敵基地攻撃能力保有、改憲・大軍拡・大増税の危険な道を阻むために、「憲法九条と13条（個人の尊重、幸福追求権）の連係プレー」が大事であると語りました。

粕江からは確認できただけで8名が参加し、素晴らしい集会に元気をもらって帰って来ました。（小俣記）

粕江の自然



ピラカンサ

鳥さんの種まきによって、いつの間生えていたピラカンサ。あちこちの生垣に真っ赤やオレンジの実をつけている。ピラカンサは何種類かのトキワサンザシ属の総称。明治時代に日本に導入された。我が家のは真っ赤な実のトキワサンザシ。オレンジ色の実のはタチバナモドキというそうだ。枝には鋭い棘があるので、お手入れの時は要注意。（中和泉 周東三和子）

